



五つの提言
 日本文化の形と心を探ろう
 生活に季節の節を織り込もう
 わが家の年中行事を作ろう
 子どもたちに伝統文化を伝えよう
 ふるさとの祭りや行事に参加しよう

【発行所】 一般社団法人 儀礼文化学会
 〒160-0012 東京都新宿区南元町 13-7
 電話 03 (3355) 4188



開館 77 周年
 明治記念館



歌を書き上げて晴明（童子丸）を抱きしめる葛の葉姫

「恋しくば尋ね来て見よ」の獅子舞

◎ 祭事スケッチ — 写真と文 久保田裕道
 〔岐阜県恵那市岩村町 岩村町獅子舞（獅子芝居）〕

平安時代の陰陽師、安倍晴明。彼は狐の子だという説話がある。安倍安名はあるとき、傷ついた狐を助けた。狐は女性に変じて安名のもとを訪ね、やがて二人は結婚。そして後の晴明が生まれる。しかし正体が明かされるときがきて、狐は去っていく。浄瑠璃や歌舞伎でも有名な「葛の葉」あるいは「信太妻」の物語である。

その狐の役を獅子が演じるというのだから、ややこしい。岐阜県恵那市の岩村町獅子舞に伝わる獅子芝居の演目である。獅子芝居とは、その名の通り、獅子が芝居を演じる。しかも女形を演じるのが獅子なのである。狐が変じた葛の葉姫は、襖に「恋しくば尋ね来て見よ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉」と書き付けて晴明を抱きしめる。その場で、口や足も使って書くのが見どころになっている。

なぜわざわざ獅子が演じるのか謎なのだが、獅子が演じて母の情愛を感じてしまうところは、さすがである。重要伝統的建造物群保存地区でもある旧岩村城下の古い町並みを背景に演じるのも、魅力的だ。昼間には三百人に及ぶという神輿渡御行列も、翌日にかけて往復する。



城下町を進む神輿渡御行列

◎ 岩村町獅子舞（獅子芝居）
 岐阜県恵那市岩村町本通り
 十月第一土曜日
 ※岩村秋まつりの神輿渡御行列は、第一土曜日とその翌日に行われる。